

家庭でもできる「わかる学力」 (思考力・判断力・表現力)の伸ばし方

2015年5月 町田市教育委員会
町田市学力向上推進委員会



自分で様々な知識や経験を関連付け、他者と協力しながら問題解決に取り組んでいく姿勢や能力は、よりよい進路を選ぶうえで、必ず役立ちます。

今後の社会をよりよく生きるために、思考力・判断力・表現力＝「わかる学力」が求められています。

実は、家庭でも「わかる学力」を伸ばすことができるのです。

町田市学力向上推進委員会顧問 東京大学大学院教育学研究科 藤村 宣之 教授

「町田市学力向上推進プラン『家庭の取組』」

町田市教育委員会では、教育振興基本計画「町田市教育プラン」に基づいて、2015年3月に「町田市学力向上推進プラン」を策定しました。

町田っ子の学力向上を図るために、学校、家庭、地域、教育委員会が連携した取組を推進します。

全国学力・学習状況調査の結果からは、家族間の会話・言葉掛け、読書の状況、テレビの視聴やゲーム・携帯電話の使用などの状況が、学力の定着に関わることが分かりました。

町田市学力向上推進プランでは、「家庭の取組」として、次の4つを挙げています。

学校と家庭が



家庭の取組1
家族間の会話

家庭の取組2
読書の習慣

家庭の取組3
家庭学習

家庭の取組4
生活習慣・規範意識

家庭でも、学校と協力しながら、家族で一緒に取り組み、子どもの思考力・判断力・表現力＝「わかる学力」を伸ばしていきましょう。

家庭の取組 1 「家族間の会話」

学校のこと、友達のことを話題にして、子どもと会話しましょう。

〈子どもへの働きかけのポイント〉

日常会話をとおして、順序よく話す、筋道を立てて話すなどの子どもの表現力を伸ばしましょう。

子どもが自分の思いや考えを豊かに話せるようにするために、話に共感しながら、

「なるほど」

「どうして？」

「詳しく教えて」

などと、問いかけながら引き出すよい聞き手になって対応してください。



また、大人が子どもに話すときは、子どもの意見を聞きながら話したり、自ら理由を話したりするようにしましょう。

□ 「それからどうしたの？」 「それでどうなったの？」

順番に話したり、筋道を立てて話したりできるようにするために、子どもの話に興味・関心をもちながら、話の続きを楽しむようにして傾聴する。

□ 「あなたは どう思う？」

判断力を育てるために、子どもが出来事を一通り話したところで、子どもに自分の意見や結論を聞いてみる。家族の意見も互いにやりとりできたら、子どもの視野も広がる。

□ 「どうして？」

誰にも分かりやすい説得力のある話ができるようにするために、話の拠り所、根拠をはっきりさせることが大切。そのために、子どもに自分の思いや考えの理由を聞くようにする。

子どもが今できていることを認めて、ほめましょう。

〈子どもへの働きかけのポイント〉

子どもの自分からすすんで学ぼうとする意欲を高めるためには、認められる喜びを味わわせることが大切です。

認められる喜びを味わっている子どもは、自分に自信をもつことができます。

子どもが自分の考えを話せたとき、約束を守ったときには、ほめてください。家族からのほめ言葉が、一番の意欲付けになります。



□ 子どもの自己肯定感を高めるために、家庭・学校での具体的な行動について、認められる喜びを味わわせる言葉かけをする。

□ 粘り強くやり遂げる態度を身に付けるために、子どもの努力の過程や結果を認め、励ますよう言葉かけをする。

□ 学習の構えをつくる言葉かけをする。
・ 学習の大切さについて、話題にする。
・ 登校の持ち物の準備、宿題への取組など、子ども自身が自分から進められるようにする。

家庭の取組 2 「読書の習慣」

本に親しみ、読書が好きになるようにしましょう。

〈子どもへの働きかけ例〉

読書は、使える言葉を増やし、言語の感覚を豊かにして、考える力を育てます。

学校との連携や町田市立図書館の利用をとおして、本に親しみ、読書が好きになるようにしましょう。

子どもと一緒に図書館や書店に出かけ、一緒に本を選んでみることもよいでしょう。



- 一緒に図書館や書店に出かける。
- 思い出の本やお薦めの本などを紹介する。
- 一緒に本を読む時間や場を設定する。
- 自分自身が読書する姿を見せる。
- 絵本や物語の読み聞かせをする。
- 家族で同じ本を読んで、話し合ってみる。
- 折り紙や料理の本などを一緒に読み、実際に作ってみる。

家庭の取組 3 「家庭学習」

学校と協力して、宿題や予習・復習にすすんで取り組みましょう。

〈家庭学習のポイント〉

学校の授業と家庭での宿題や予習・復習の取組が結びつくことで、学習内容が一層定着します。

家庭学習の習慣を身に付けるためには、子ども自身の努力はもちろん、学校と家庭が互いの役割を理解し合うことが大切です。

与えられた課題をこなす学習から、自分で目標を決めて取り組む学習へと発展できるよう、学校と家庭で力を合わせて、子どもが自分から取り組み、続けて取り組む学習習慣を目指しましょう。



- 学習の環境を整える。
 - ・学習中は、テレビやゲームの電源スイッチを切る。
 - ・机、テーブルの上を片付ける。
 - ・学習用具を揃える。
- 時間を決めて続ける。
 - ・毎日、決まった時刻に始めるようにする。
 - ・習い事や部活動がある日、休日などの場合の時間も決めておく。
- 自分で計画を立てて学習する。
 - ・「〇ページまで終わらせる」、「〇〇を覚える」など、自分なりの目標をもつ。
 - ・計画に無理があれば、計画を立て直す。
- 学校と協力する。
 - ・連絡帳や学校からのプリントを確かめる。
 - ・「読む」だけでなく、「書くこと」や「声に出す」ことを大事にする。

家庭の取組 4 「生活習慣・規範意識」

テレビを見る時間、ゲームで遊ぶ時間、携帯電話を使う時間を決めましょう。

〈子どもへの働きかけのポイント〉

規則正しい生活習慣や規範意識を身に付けることは、学習活動を支える基盤をつくることにもつながります。

計画的な時間の使い方を身に付けることや、集団社会の一員として、よりよい人間関係を築こうとする態度を育て、規範意識を高めるようにしましょう。



- 早寝、早起き、朝ご飯を心がける。
- テレビを見る時間、ゲームで遊ぶ時間を決める。
- スマートフォン、あるいは携帯電話を持たせている場合、使う時間や使い方などのルールを作る。
- 家や学校のきまり・約束を確かめる。
- 公共施設や交通機関の利用をとおして、公衆道徳、エチケット・マナーについて教える。

町田市の「学力向上」の取組

すべての子どもの学びを支える～「できる」、「わかる」授業のために～

全国学力・学習状況調査の結果、町田市の子どもは、基礎・基本的な問題の正答率が比較的高く、**基礎・基本＝「できる学力」**については概ね定着している一方で、活用問題・応用問題については正答率が低いことが分かりました。

そこで、町田市立小・中学校では、活用問題・応用問題を解答するために必要な**思考力・判断力・表現力＝「わかる学力」**を高める授業に取り組むことにより、「できる学力」と「わかる学力」をバランスよく身に付けた子どもの育成に取り組んでいます。

目指す町田っ子の姿 **「ま・ち・だ」** の力を身に付ける

